

# 「いっしょにいるよ」 SOS子どもの現場

●40●

一昔前まで精神科は大人が行く所で、「子どももが通院」というのは考えられなかった。しかし、最近は発達障がいに加え、親から虐待を受けた被虐待児も増加。発達障がいと虐待によって引き起こされた情緒障がい両分野のニーズが高まっている。

## 小児思春期外来

別にするなど、ハード面も整備した。  
きっかけは児童相談所からの相談だった。児童養護施設で暮らす被虐待児が、施設で他の子どもへ暴力を振るったり、夜中に大声を出すなど問題行動が発生し、同病院に時々相談が寄せられていた。  
小池桃子医師は「発達障

子どもに関する情報、ご意見をお寄せください。098(865)51558  
ファクス098(865)5222 Eメール kodomo@nyukyushimpo.co.jp  
がいの症状と似ていると言われる。  
「自傷行為や他の人に危険を感じさせる加害行為があれば、入院が必要な場合もある」と小池医師。同病院では別の目的でつくった個室を転用し、どうしてもという場合、入院を受け入

# 被虐待児診る医師少なく

現在、県内に児童精神科を掲げている病院は数カ所。それも発達障がいの外来がほとんどで、被虐待児に対応できる医師自体が少ない。金武町の琉球病院(村上優院長)は従来の精神科に加え、今年1月から小児思春期外来を設置し、

精神科医、看護師、心理士、精神保健福祉士、療育指導員らが病院内でチームをつくり、態勢を整えた。子どもが遊びながら診療が受けられるプレイルームを設置。制服で来院する生徒などにも考慮し、一般外来との出入り口や待合室を

がいて思っていた子が、実は被虐待児だったケースもあり、その症状は似ていて判別が難しい」と語る。被虐待児の特徴は、

れたケースもあった。しかし、子どもの教育権を考えた場合、院内学級などの整備が必要なことなど課題もある。  
同病院の心理士・野村れいかさん(35)は「医療が必要な深刻なケースは医療機関で特定の大人と信頼関係

を結び、育ち直しや規則正しい生活を送ることで治療  
情緒障害児短期治療施設(情短)がいろいろの「では」と役割分担を指摘する。  
情短は県外に約40カ所あるが沖縄にはない。18歳まで入所可能で、施設内で生活し、治療と授業も行われる。発達障がいも対象にしており、県内でも関係団体から以前から設置要望が出ているが、実現のめどは立っていない。  
(知花亜美)



プレイルームで遊びながら子どもを診療できる琉球病院の「小児思春期外来」の診察室。金武町金武、琉球病院

## 第2部 支える現場

## 琉球新報